



Flash News

三重大学

第62号

目次

●新学長候補者に内田淳正教授が選出される

●文部科学省の平成20年度

「大学病院連携型高度医療人養成推進事業」に採択

●文部科学省の平成20年度「大学院教育改革支援プログラム」に採択

●「パールの輝きで、理系女性が三重を元気に」

キックオフ・シンポジウムを開催

●生物資源学研究科がダブルディグリー制度

「総合的食料生産・管理計画学プログラム」に調印

●天津師範大学創立50周年記念式典に桜の苗木を寄贈

●生物資源学研究科附属練習船命名・進水式

●第8回国際環境シンポジウム四日市公舎から学ぶ「四日市学」

●コラボ産学官三重支部設立総会

●平成20年度産学連携「技術者育成講座」

●附属病院小児科病棟夏祭り

●オープンキャンパス

●「日本語・日本文化研修留学生（2007年度生）研究成果発表会」

●平成20年度教員免許更新予備講習

●風車でかき氷

●「2008年度サマースクール」

●高大連携事業

●練習船「勢水丸」に海上保安庁から感謝状

●教育学部附属小学校音楽クラブ

「NHK全国学校音楽コンクール」出場

●附属病院DMA Tが三重県総合防災訓練に参加

●地域・職域保健医療支援センター開設記念講演会

「医療を活かす地域のちから」

●レクチャーコンサート「オペラにみる愛さまざま」

お知らせ & ご報告

●知的財産統括室から

●保健管理センターから

新学長候補者に内田淳正教授が選出される



内田淳正教授

三重大学学長選考会議は、9月10日に内田淳正医学系研究科教授（現附属病院長）を選出しました。

(<http://www.mie-u.ac.jp/gakunai/gakutyosen.htm>)

内田教授に抱負を語っていただきました（以下、内田教授の談話）。

「三重大学学長候補者として選出していただいたことを非常に光栄に思っています。しかし、これからの厳しい大学運営を考えますと身の引き締まる思いをとおり越して氷のようにフリーズしてしまいそうです。それも一瞬、内田ビジョンを実現したいとの情熱で氷を溶かし、早速新しい体制作りに取り組みねばと行動をおこしています。教職員の皆さんとの対話を重視した暖かい大学運営で、教育・研究の一層の活性化を図り、大学の使命である『人材』の育成に努めます。よろしくご支援、ご協力をお願いします。」

文部科学省の平成20年度「大学病院連携型高度医療人養成推進事業」に採択

文部科学省が公募した標記事業に、本学が参画する3件のプログラムが採択されました。名古屋大学が中心となり本学を含む東海7大学で申請した「東海若手医師キャリア支援プログラム」、滋賀医科大学が中心となり本学を含む8大学で申請した「コア生涯学習型高度専門医養成プログラム」、琉球大学が中心となり本学を含む28大学で申請した「多極連携型専門医・臨床研究医育成事業」です。この事業は、初期臨床研修後の臨床研修を、特定の大学病院とその関連病院のみではなく、緊密に連携・協力したプログラムに含まれる複数の大学病院を循環しながら行えるようにするものです。これらプログラムの実施により、各大学病院の得意分野による相互補完がはかられ、質の高い専門医や臨床研究医が養成されると共に、専門医研修の循環が活性化されることにより、地域の医師不足の解消にも貢献できることが期待されます。

文部科学省の平成20年度「大学院教育改革支援プログラム」に採択

標記プログラムは、全国の大学院の優れた教育への取組に対し、文部科学省が重点的に支援する事業です。平成20年度に本学の「国際推薦制度による留学生教育の実質化（生体侵襲ダイナミクスの国際的研究者養成）」（代表者：駒田美弘 医学系研究科長）が採択されました。本取組では、生体を脅かす様々な侵襲とそれに対する生体応答について、優れた研究グループを組織します。それを主体とする国際水準の教育プログラムを実施し、国内だけでなく、発展途上国からも国際推薦制度によって大学院生を受け入れ、優れた人材育成による社会貢献と国際貢献を図ります。詳細は、<http://www.medic.mie-u.ac.jp/gakumu/index.htm>に公開します。

「パールの輝きで、理系女性が三重を元気に」キックオフ・シンポジウムを開催

8月2日、伊勢パールピアホテルにおいて、平成20年度文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業に採択された標記プログラムのキックオフ・シンポジウムが開催されました。シンポジウムでは、豊田学長の挨拶の後、東北大学大学院医学系研究科 大隅典子教授の「好きな仕事を見つけよう」と題した記念講演が行われ、世界的な脳科学者となられるまでの経緯が語られました。続いて、三重県下の理系研究者を擁する7つの連携機関から現状報告が行われ、女性研究者の現状について理解を深めるなど、50名の参加者は熱心に聴き入っていました。

生物資源学研究科がダブルディグリー制度「総合的食料生産・管理計画学プログラム」に調印

7月29日、生物資源学研究科とインドネシア・スリウィジャヤ大学*との間で、大学院博士前期課程に標記制度を設けることが合意されました。このダブルディグリー制度は、本学において理系では初の、そして大学院レベルでも最初の制度であり、「食料生産とその管理に関して幅広い知識と高度な技術を有し、かつ国際感覚を備えた人材の育成」を行います。このプログラムでは学生は、1年次はインドネシアで、2年次は日本で就学し、修士（生物資源学）とMagister Sains（修士）の同時取得を目指します。（*スマトラ・パレンバン市に位置し、9学部で2万人が学ぶ総合大学。大学名は7世紀から約500年間栄えた仏教王国の名に由来する。）

天津師範大学創立50周年記念式典に桜の苗木を寄贈

9月7日、天津師範大学において標記式典が挙行政され、本学から豊田学長はじめ5名が出席しました。当日は、早朝より新キャンパスの一角において、日本語教育コース第一期生が見守る中、学長自ら揮毫した「桜庭園」が彫り込まれた標石の除幕式と植樹を高玉葆学長らとともに行いました。また、夕刻からは、グラウンドに1万名の学生が集まり、卒業生や在学生の歌と踊りの「公演」が多彩に繰り広げられました。豊田学長が祝辞で本学が50周年にあわせ50本の桜の苗木を寄贈し植樹したことを紹介すると、学生たちから大喝采が起きました。両大学の友好交流の証として、来春の開花が待ち望まれます。



生物資源学研究科附属練習船命名・進水式

9月24日、三菱重工業株式会社下関造船所において、標記進水式が挙行政されました。生物資源学研究科長 田中晶善教授をはじめ本学と三菱重工から約30数名が出席しました。式では花束贈呈に始まり国歌吹奏の後、生物資源学研究科長が「勢水丸」と命名し、公募で選ばれた生物資源学部4年生 北原あゆみさんによる支綱切断と同時にシャンパンが割られ、船体がゆっくりと動きだし、くす玉が割れて無事進水式を完了しました。式典終了後に催された祝賀会では、前川建造委員長の発声のもと、進水式と同種のシャンパンで乾杯し、和やかな雰囲気で行われました。



第8回国際環境シンポジウム四日市公害から学ぶ「四日市学」



7月20日、講堂において標記シンポジウムが開催されました。学生や教職員、一般参加者、日本地理教育学会の会員など約350人が参加しました。今回は日本地理教育学会の大会も兼ねたこともあり、21世紀型環境教育や地理教育のあり方を探ることを主なテーマとし、朴恵淑人文学部教授による基調講演、韓国啓明大学の李明均助教授による日中韓の環境問題の現状報告に続いて、パネル討論では大井正日本地理教育学会会長が日本の環境教育や地理教育の現状について述べ、環境マインドの高い人材育成のあり方について積極的な意見交換を行いました。環境の輪を広げて議論でき、大変有意義なシンポジウムでした。

コラボ産学官三重支部設立総会

7月29日、四日市市内のホテルにおいて、会員企業や三重大学などの協力機関から約170人が出席し、標記総会が開催されました。コラボ産学官三重支部は県内の中小企業と大学等の研究機関、行政機関との産学官連携の橋渡しを行い、産業の創出と活性化を目指しています。総会后、豊田学長により「三重大学の地域連携戦略」をテーマにした記念講演が行われ、本学の様々な地域連携活動が紹介されました。本学は、地域イノベーションを目指し、本三重支部や行政機関と協力して、県内中小企業との更なる連携を図っていくこととなります。

平成20年度産学連携「技術者育成講座」

標記講座が7月30日より始まりました。この講座は平成18年度から本学が三重県、四日市市と協力して開講し、平成18年度延べ151名、平成19年度延べ122名が参加しました。今年度は「技術者育成講座」に36社75名、企業の要望に応じて新設した「製造管理者育成講座」には43社71名の応募がありました。今年度から「失敗から学ぶ」学習方法を主体に、講座内容に企業からの要望を取り入れ進歩させながら、産学官連携を深めて中核となる技術者育成に努めます。



附属病院小児科病棟夏祭り

附属病院小児科病棟では、入院中の子どもたちに楽しんでもらおうと様々な行事を催しています。なかでも、三重大学の学生ボランティア「ぞくよん」の協力のもと開催している夏祭りは、子どもたちに特に好評です。今年も7月23日夕方から、1階外来ホールで輪投げや、ボールすくい、浴衣コンテストなど様々な出し物が行われ、病棟では見られないような生き生きとした笑顔で楽しんでいました。



オープンキャンパス



7月31日～8月6日の期間中に、今年もオープンキャンパスが開催されました。高校生をはじめ保護者の皆様に三重大学を実際に見て、聞いて、知っていただく最良の機会として、5学部が学部毎に、オープンラボ、体験授業、模擬裁判、診察実習、病院見学、入試相談など、趣向を凝らした企画を行いました。来場者は県内からの参加が全体の約7割を占めましたが、猛暑の中、全国31都道府県から昨年とほぼ同じ約4,000名が参加しました。大学祭期間中の11月1日には、ミニオープンキャンパスを開催します。

「日本語・日本文化研修留学生（2007年度生）研究成果発表会」

8月1日、国際交流センター視聴覚・コンピュータ室において、2007年10月から国際交流センターで日本語能力および日本事情・日本文化の理解を向上させるため研修を受けていた留学生5名が1年間の留学生活の締めくくりとして、研究の成果を発表しました。内容は、「小林一茶」、「武道武術」および「端午の節句」など、日本人やその文化・風習について彼らの視点から考察されており、聴講者の関心を誘いました。

平成20年度教員免許更新予備講習

本学では、8月に選択科目に相当する3つの講座を予備講習として実施しました。この予備講習では南北に長いという三重県の地理的特性を考慮し、遠隔の2つの会場（本学と尾鷲地区および鳥羽地区）を結ぶテレビ会議システムを導入しました。定員の10倍近い申し込みがある会場もあり、好評のうちに講習を終了することができました。また、尾鷲地区の先生方からは平成21年度からの本実習においてもテレビ会議システムや出前授業について強い要望が寄せられています。

風車でかき氷

8月8日、三重大学VBLにおいて標記活動（実施代表者：前田太佳夫教授・工学研究科）が行われました。この活動は、当研究室が、1999年度JSPSふれあいサイエンスプログラムに採択されたことから始まり、以後、地元の小中高校や進学塾あるいは自治体と連携して、継続的に行っている活動です。本年度は、地域貢献支援活動の支援を受け、「三重私塾の会」と共同で実施されました。参加した24名の子供たちは、風力発電の講義の後、大学院生の補助を受けながら小型風車の組立実習を行いました。最後に風車で得た電力でかき氷を作り、楽しみました。



「2008年度サマースクール」



8月25日～9月12日の3週間、国際交流センター主催の標記スクールが開催されました。受講生は、ドイツからハイデルベルグ大学を始め3大学の学生15名、中国から江蘇大学および広西大学の学生5名の計20名が参加しました。期間中、受講生たちは、県内各地でホームステイをしながら、午前中は国際交流センターで日本語の授業を受け、午後からは研修等（芭蕉庵、伊賀上野城、伊賀流忍者博物館や伊勢型紙などの見学、茶道体験、座禅体験や伊賀の里モクモク手づくりファームでの農業体験および津市立南が丘小学校訪問等）に参加し、余暇は日本人学生やホストファミリーとの交流を深めました。なお、最終日には修了式が行われ、受講生全員に修了証書が授与されました。

高大連携事業



三重大学では、教育活動のより一層の充実をめざして、高等学校との結びつきを入学試験という「点」から、相互理解に基づく日常的な連携という「線」への転換を進めています。その一環として、平成19年度に高大連携推進専門委員会を設け、三重県教育委員会との間で高大連携事業に関する協定書を締結し、さらに連携を深めました。今年度も出前授業、大学訪問、オープンキャンパスなど各学部での取り組みに加えて、サマーセミナー、東紀州講座、高校生向け公開授業、スーパーサイエンス・ハイスクール（SSH）、サイエンス・パートナーシップ・プログラム（SPP）などを全学的に取り組んでいます。詳しくは、<http://www.mie-u.ac.jp/koudai/>をご覧ください。



練習船「勢水丸」に海上保安庁から感謝状

生物資源学研究所附属練習船「勢水丸」の長年にわたる海上保安庁の水路業務に関する貢献が認められ、同庁から感謝状が授与されました。「勢水丸」は、実習・研究航海で得た水温・塩分データ（表層水温・CTDによる3,200m深まで）や、海流情報（超音波式潮流計）の提供を昭和55年に運航を開始して以来、約28年にわたって行ってきました。伝達式は9月12日、国土交通省海上保安庁長官室で実施され、長官次長から、練習船「勢水丸」内田船長に対し、感謝状および記念品の伝達がありました。



教育学部附属小学校音楽クラブ「NHK全国学校音楽コンクール」出場



8月5日、津市久居市民会館で開催された標記コンクール三重県大会において、当クラブは金賞を受賞し、9月6日、三重県代表として、愛知県稲沢市民会館で開催された東海北陸ブロックコンクールに出場しました。日々、練習を重ねた結果、2年連続小学校の部で金賞を受賞し、全国コンクールへの切符を手に入れました。全国コンクールは、10月11日に渋谷のNHKホールで、全国9ブロックの代表11校が参加して開催されます。附属小学校では子ども一人ひとりがつながって歌うことを大切にしており、全国コンクールという大舞台でも精一杯、心つながる歌声で活躍することが期待されます。

附属病院DMATが三重県総合防災訓練に参加

南海、東南海地震を想定した県総合防災訓練が9月7日、伊勢市の県営サンアリーナで行われ、附属病院DMAT（災害医療派遣チーム）が参加しました。訓練では、DMAT隊員（大森助教他4名）が、陸上自衛隊明野航空学校から、ヘリで訓練会場に出動し、訓練会場に設置された統括DMAT現地本部（武田救急部長他1名）で指示を受け、負傷者のトリアージおよび応急処置を行い、引き続き自衛隊ヘリに搭乗し、重篤患者の搬送に当たりました。今回の訓練で初めて陸上自衛隊との連携方法等が確認でき、非常に有意義な訓練となりました。



地域・職域保健医療支援センター開設記念講演会「医療を活かす地域のちから」

9月15日、アスト津において、坂口力元厚生労働大臣による特別講演「医療と地域と大学の共生を期待する」とシンポジウム「地域資源を活用して発展する三重の保健医療」が行われました（シンポジストは、医学部：竹田 寛教授、富本秀和教授、人文学部：尾崎俊雄准教授、三重県立看護大学地域交流センター：佐甲 隆センター長）。これは、文部科学省政策課題対応経費を得て設置された「三重大学地域・職域保健医療支援センター」の主催によるものです。本センターは、地域および職域の保健医療活動を支援し、これらを支える人材の能力開発と育成に貢献することを目指しています。また、皆様の種々の事業、講演・研修会、調査研究などを予算面も含めてお手伝いします。詳しくは、<http://www.medic.mie-u.ac.jp/support/>をご覧ください。

レクチャーコンサート「オペラにみる愛さまざま」



9月20日、標記コンサート（主催：附属図書館）が新国立劇場オペラ研修所顧問の海老澤敏氏を招いて講堂で開催されました。今年で3回目となるコンサートでは海老澤氏が「オペラにみられる愛」をテーマにした曲目をユーモラスに解説され、ヘッドコーチのブライアン・マスタ氏のピアノ伴奏で4名の研修生がモーツァルトの「ドン・ジョヴァンニ」や「フィガロの結婚」、ドニゼッティの「ドン・パスクワレ」などのアリアや二重唱を朗々と歌い上げ、約200名の観客を魅了しました。また、コンサート終了後出演者一同、附属図書館で開催していたコンサート記念展示を見学され、様々な展示物に関心された様子でした。

お知らせ & ご報告

知的財産統括室から

《「Mip特許塾」開催》

本学と三重県が連携して、県内中小企業の若手人材および高等教育機関の若手研究者などを対象に、知的財産を取得する「Mip (Mie intellectual property) 特許塾」を開催します。詳しくは、<http://www.crc.mie-u.ac.jp/chizai/L7.htm>をご覧ください。

保健管理センターから

《「fの時間」放送始まる！》

「レディオキューブFM三重」で、「働く人の健康づくり」のキーパーソンをゲストに迎え、21世紀の職域保険を共に考え、提案していく番組が放送されることになりました。ぜひお聴きください。放送は、毎週火曜日17：55～18：00



投稿のお願い

各種事項（大学教育・研究、地域連携、国際交流、学内事業等）に関するフレッシュなニュース提供をお待ちしています。小林英雄 (kobayashi@mie-u.ac.jp) または井上真理子 (mariko-i@ab.mie-u.ac.jp) まで。場合によっては、取材に向きます。《フラッシュニュースのバックナンバーは、三重大学ホームページで (<http://www.mie-u.ac.jp>) ご覧いただけます。》編集責任者/理事・事務局長 三浦春政

